京都大学新聞

学生団体
京都大学新聞社
京都市左京区吉田京大構内
(075) 761-2054　直通
(075) 753-7531 (内線2571)
FAX　(075) 761-6095
振替　01020-3-3909
1部100円

どこか遊び心を感じさせる、そんなお気に入りを見つけたい。
選ぶ楽しさ
わたし流
京都駅前地下街
PORTA
●ショッピング街10:00～20:00
●レストラン街11:00～21:00(モーニング8:00～)
☎(075)365-7520

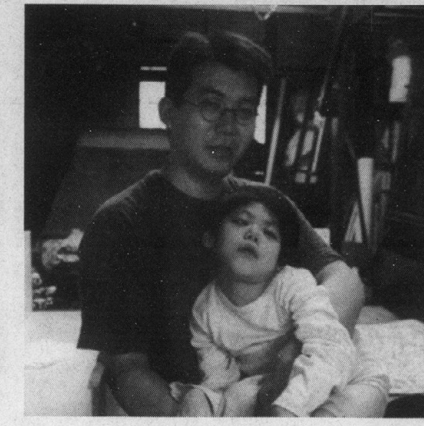
■今号の紙面■

二面　書評・「レスビアンの歴史」
三面　書評・「ブラックフェミニストの主張」／書評「安部公房全集1」／自著を語る・「離散するユダヤ人」
四面　インタビュー「小説海越」／書評・「御開帳」

読書特集号

# 個人闘争としての現代美術

Part 1



千秋さんと愛語くん。アトリエ兼訓練所にて

■和田 千秋氏 プロフィール■

| | |
|---|---|
| 1957 | 大分県大分市生まれ |
| 1982 | 九州産業大学芸術学部美術学科卒業 |
| 1983 | 同大学同学部研究科終了 |
| 1987 | 長男が脳に障碍を負って生まれる |
| 1987～92 | 長男の機能訓練に専念するため、作品の製作・発表を中断 |
| 1992～ | 「障碍の美術」シリーズで製作を再開 |

最近の作品展
1996年9月～11月
「美術家の冒険」　主催：国立国際美術館
1997年4月～5月
「しなやかな共生」　主催：水戸芸術館現代美術センター

作品は、多様な解釈を生み出すための装置です。だから、作家が自分の作品を説明することは避けねばなりません。しかしこの「障碍の美術」は、少し特殊な作品なので、何故このような作品を作り始めたのかという、経緯を説明したいと思います。

私は、一九八〇年から作品を発表し始めました。八〇年代は主に、美術の内的な必然性によって展開していく作品を作っていました。しかし八七年に、長子が生まれる時に障碍を負ってから、全く作品を作れなくなりました。子供のリハビリテーションに時間をとられるのと、以前からの作品を作り続けることに、興味を失ったからです。子供の障碍のことで頭がいっぱいでした。障碍を持つ子供の親は、親自身もある意味で障碍を負っています。私も作品を作る自身を失っていました。

## 障碍の受容と治癒
## 作品を作る自身の復帰

それから数年間、子供から教えられたり、励まされたりする中で、私は子供と共に育ちました。育児は育自と言います。子供の障碍から学ぶ内に、私は次第に、障碍の様々な問題を美術家として受け止め、それを美術というかたちで社会に送り返せないだろうかと思うようになりました。そこで、私自身が立ち直るためのリハビリテーションも兼ねて、作品の製作を再開しました。

従って「障碍の美術」は、「障碍の様々な問題を扱う美術」というほどの意味で、私自身の障碍の受容と治癒を契機として生まれました。しかしそれは一方、社会と切り離されて自律運動してきた現代美術に、他の領域から、いわば他者性を取り込むことなのです。その意味で「障碍の美術」は、美術のリハビリテーション（社会復帰）とも言えるでしょう。

（東京での個展のパンフレットから転載。一九九二年）

---

和田千秋氏は障碍を主題として作品を製作・発表している福岡在住の現代美術作家です。現代美術の世界では、シンディ・シャーマンやジェニー・ホルツァーなど美術作品に外部性（ジェンダーやマイノリティーなどの政治的問題）を持ち込む作家が、九〇年代以降とくに多くなっています。一方で、日本においてはそのような外部性を正面から取り扱っている作家はほとんど皆無といって良いでしょう。以下に掲載するのは、いまだに「ポスト・モダン」なる遊戯的な作品が製作されつづけている日本において、「地方」である福岡で作品製作をしつづけ、最近ようやく「中央」でもその作品の独自性が認識されるようになった和田氏の文章とそれに対する質問です。

（六田俊一）

## 和田千秋氏インタビュー
# 「障碍の美術」
## ——自分自身のリハビリの為に

### 聞き手　六田 俊一

——初期の作品（紙を細長くちぎって張り付ける作業の繰り返しによる作品、素材感を出しながらミニマルな構成になっている）では、「美術の内的な必然性」（美術史におけるフォーマリズムの流れ）に関心があったが、長子が障碍を負って生まれた後には「以前からの作品を作り続けることに、興味をうしなった」と書いています。フォーマリズムの枠組みの中で作品を製作することに興味をうしなった理由や経緯はどのようなものだったのでしょうか。

福岡で美術学生をやっていたときに、フォーマリズムの研究会に参加したりして、そのことが直接のきっかけでミニマルっぽい作品を当時は作っていました。しかし一方でネオダダや九州派（福岡を中心に活動した反芸術を標榜するグループ）にも出会う機会があり、廃屋を用いて作品を展示するといったゲリラ的な作品製作をしたり、美術制度そのものの存立基盤の自明性を疑うといったことを考えたりして、それらのことは後の作品にも影響しています。

もともとフォーマリズムに対してはアンビヴァレントな立場にいたのですが、それにもまして一番の理由は、やはり生活が変わったことですね。一日の大半が子供の機能回復訓練に費やされ、考えることといったら子供のリハビリのことと障碍を取り巻く様々な問題についてばかりになりました。障碍に関する文献を何百冊と読みあさったりしましたね。そのような状況で、生活とかかわりをもつことのできない美術に関心をなくしてしまいました。美術の内的な形式のみを追求するフォーマリズムでは、端的に障碍の問題を表現できないんですね。

——一時製作を中断なさった後に再び「障碍の様々な問題を美術家として受け止め、それを美術というかたちで社会に送り返せないだろうかと思うようになり」「障碍の美術」というテーマで作品製作を再開なさったのですが、再開なさった理由や現在の作品形式（平面やインスタレーション風の作品と障碍に関する文章の組み合わせ）に至った経緯などをもう少し詳しく話していただけないでしょうか。

### 「イロニー」と「ヒューモア」

## 解放のための批判
### 生活と関わることのできる美術へ

まず、製作を再開するきっかけを与えてくれたのは、アジア美術と大江健三郎氏の作品でした。少し話がそれますが、批判の仕方には「イロニー」と「ヒューモア」の二種類があります。簡単に言うと「イロニー」は自分の観点を絶対化したうえで他者を批判する方法であり、「ヒューモア」は他者と同時に自分自身をも批判の対象として自己の観点を相対化してしまう方法です。言い換えれば、「イロニー」は特定の価値体系から別の特定の価値体系を批判するのですが、「ヒューモア」は特定の価値体系を絶対化すること自体を批判するのであり柄谷行人氏の言うような超越論的態度みたいなものですね。話をもとに戻すと、タン・ダニウ氏やラシード・アライーン氏といったアジアの現代美術作家や大江氏の作品には「ヒューモア」があるのです。共に資本主義社会や障碍者への差別などへの批判が込められているのですが、単に相手を批判するだけでなく人を解放してくれるような笑い（ヒューモア）が含まれているのです。

はじめは、八十年代以降欧米をはじめ日本でも一世を風靡していたポストモダンの形式で障碍をテーマに作品を製作できないものかと考えていましたが、様々な美術形式をコラージュして表層的な文化や消費社会を冷笑する（イロニー）ような方法はどうもしっくりこなかったんですね。表層的なものを表層性自身を利用して批判するにはいいかもしれないが、切実な問題を扱うのには適していないのです。そんなときに出会ったのが、先程のアジア美術と大江氏の小説だったのです。その出会以降、深刻なテーマを扱いながら同時に我々を解放してくれるような暖かさと祈りが含まれるような作品を製作できないものかと考えるようになりました。

それともう一つ、先の文章にも書いてありますが、自分自身のリハビリの為というのもあります。作品の製作・展示を通じて、疲労困憊した自分を相対化することによって解放するとともに、作品をとおして新しい出会いや様々なコミュニケーションが生じて自分が新たな場へと開かれていくことにもなりました。子供のリハビリが作品を媒介として自分自身のリハビリへとフィードバックされたわけです。

（二面へ続く）

## 晴耕雨眠

冬の朝。目覚めて時計を見ると、まだ午前五時だったりすると、「ああ、まだ眠っていられる」と、安堵をついたものだ。この時の幸福感は、とても他の物では変えられない。しかし、それは高校時代くらいまでの話で、特に起きる理由の無くなった今では、何の感動もないまま眠欲を貪っている。

私ももうすぐ四回生。就職して、社会人になったら、あの幸福がまた復活するのだろうか…。とりあえず今は眠りたい。（武）

## 京大文芸事情

# シエスタ
## (siesta)

「シエスタ」は一年前から活動を始めた、まだできたばかりのサークルである。その前身となる「立ち読み」というサークルが二年前につくられ、これは一年と四ヶ月ほど続いたそうだ。その後、「立ち読み」は発展的解消を迎え、「シエスタ」へと移行した。現在、価値観も書くジャンルも異なる様々な人が（実質的には）十人くらいで活動している。毎週月曜日、経済学部地下の講読室で、各自が持ち寄った作品を合評したり、感想を言い合ったりしている。シエスタという名前について、代表の橘川さんは「意味のある名前にしたくなかった。無色透明な感じにしたかった。」と言っている。ふざけたこともやりたいという人がいる一方で、それに反対する人もいる。一般的な同人誌は暗く、死臭がするのでそれに対するアンチテーゼとして文芸誌「シエスタ」を位置づけたいという意図もあるそうだ。

－文芸サークル「シエスタ」選作集－
siesta

「シエスタ」第二号を繙いてみると、小説・詩・書評・エッセイ、おまけにコントと、確かに様々なジャンルの作品が載っている。また、誌内の写真もシエスタのメンバー自身が撮ったものである。全体的にみて「軽く」読めるものが多かった。この中で私が気に入ったのは「魔術なキミに逢いたくて」というエッセイだ。筆者は総合人間学部図書館でアレイスター・クロウリー著作の「神秘主義と魔術」という本をみつけた。そして、その本の中でマザー・グースなどのありふれた童謡に「魔術的解釈」という強引な解釈を加えているのを真似して、日本の「どんぐりころころ　ドンブリコ～泣いてはどじょうを　困らせた」という童謡を強引に解釈してみるという内容である。筆者の語り口は軽妙で、一種の「ウケ」を狙った文章は往々にしてそれ特有の臭みを感じさせるものだが、この作品ではそれを表現でうまく回避している。クロウリーの強引な解釈がどんどん進んでいくのに対して、「ああ、僕を置いてクロウリーさん、どこか遠くへ行っちゃう・・・。」といってみたりと。最後のところで、オカルトにハマっていく人間の心を考察してはいるが、やはりこの作品はコメディーとして読むのが適当だろう。同人誌にこのようなコメディーが載せられるというのは、珍しいのではないかと思う。本の最初に「《序に変えて》　もはやはしゃぐことさえ演技である。」ともあるが、このあたりに一般の同人誌のもつ「暗さ、まじめさ」に対するアンチテーゼが見受けられる。そのため、ものを書くという行為に単純な「真剣さ」で取り組もうとする人には肌があわないかもしれない。もちろん、そういう人を拒んではおらず、書いていることに責任をもつ人を望んでいる。サークルとして テーマや目標を決めているのではなく、各々が好きなように作品を書いてるようである。また、現在京大内にサークルとして一般の文芸をやっているところ「シエスタ」がないため、そのような文芸に取り組みたいと思っている人に、選択肢があまりないという問題もあるそうだ。何をするにしても、まだ手探り状態といったサークルである。（乙）

Information

**●絵画展の石黒商会（三展連続開催）**

！長谷治郎個展「空の発明」十一月二十五日から三十日／″石黒太郎・たかぎみ江・長谷治郎・堀口貴四人展「石黒商会」十二月一日から七日／#石黒太郎個展「超類図鑑」十二月九日から十四日／場所：！″#ともcoffee／gallery f-ield（烏丸錦小路東入る）／時間：十一時半から二十四時・日曜は二十時まで（十二月六日十六時から十九時は貸し切りのため入場できません）／コーヒー三百五十円から／作品の販売も行います／問い合わせ：〇七五－七二二－九四二八（ナガタニ）

**●被抑圧者の人権教育－フィリピンの取り組みに学ぶ**

日時：十月二十九日（水）十八時半から二十一時／講師：マーディ・マパ・スプリド氏／参加費：千円（通訳付き）／定員：八十名（要参加申込）／会場：大阪市立弁天町市民学習センター（大阪市港区弁天一－二－二－七〇〇　オーク二番街7F）　TEL〇六－五七七－一四三〇／主催：アムネスティ・インターナショナル日本支部人権教育チーム関西／問い合わせ・参加申し込み：アムネスティ・インターナショナル日本支部大阪事務所　〒五三一　大阪市北区中津三丁目十七－五城ビル2F　TEL〇六－三七六－一三四〇

**●「戦争と女性への暴力」国際会議公開シンポジウム**

日時：十一月三日（月）九時三十分から十六時三十分／会場：全電通ホール（お茶の水駅聖橋口下車二分）／参加費：千円／主催：「戦争と女性への暴力」国際会議実行委員会（日本）／協賛：神奈川県人センター／問い合わせ先：TEL〇三－三二〇三－七三三二

**●特別展『戦時下の娯楽～遊びの世界から戦争が見える～』**

日時：七月二十六日（土）～十一月二日（日）／会場：ピースおおさか（大阪国際平和センター）特別展示室（地下鉄中央線、JR環状線「森ノ宮」下車、西へ約五分）／入場料：大人二百五十円、高校生百五十円、中学生以下・六十五歳以上および障害者の方は無料／連絡先：TEL〇六－九四七－七二〇八

**●第一回京都映画祭　京都国際学生フィルムフェスティバル部門自主制作作品選抜上映　応募作品募集**

応募資格：原則として学生、大学院生／応募受付期間：十月三十一日（金）／応募作品規定：九十六年・九十七年製作のもの、時間は約二十分まで、応募点数は一人一点、作品形式はフィルム（8ミリ・16ミリ）またはビデオ（VHS・SVHS・Hi8）のものでVHSにコピーしたものを送付、応募作品は返却しない／応募と問い合わせ：京都映画祭実行委員会事務局、〒六〇六　京都市左京区岡崎最勝寺十三番地　京都会館別館2F　TEL〇七五－七五二－四八四〇　FAX〇七五－七五二－一二四九

**●ゲイ・フロント関西企画製作『いったいゲイってなんやねん'97』**

日時：十一月二日（日）十三時から十六時（十二時半開場）／会場：大阪大学大学祭会場内法経講義棟J－5教室／参加費：七百円（二次会とセット料金二千三百円）

SMI EDI エディカラー COLOR 2.1
京都大学新聞は住友金属工業のEDIcolor2.1で製作されています。

**●甲山事件を考える講演とシンポジウム**

日時：十月二十五日（土）午後一時から五時／会場：兵庫県私学会館（神戸市中央区北長狭通四－三－十三　JR阪神元町駅東口徒歩三分）　TEL〇七八－三三一－六六二三／主催：甲山事件救援会　大阪市北区天神橋三－一－四十三東邦ビル四〇二　TEL〇六－三五一－七二七八／参加費（資料代）：千円

**●西部講堂今後の予定**

十月二十四日～二十六日、芝居　パララン翠光団『少女都市』／十一月一日から三日、ライヴなど　西連協『西部還暦祭』／六日から九日、芝居　魚人帝国『白いカラスは歌うクジラの夢をみて泣く』／十五日、ファッションショー　釣り合い鉄筋比『狂人頭脳』

**●日米合同軍事演習反対！やめよう戦争への道！十一・二あいば野集会へ**

日時：十一月二日午後二時から三時半／集会後デモ（自衛隊今津駐屯地へ抗議申し入れ）／会場：橘公園（JR湖西線・近江今津駅下車徒歩五分・郡民会館横）

会議・宴会・宿泊・婚礼は平安会館へ
●宴会場大小和室13室
●客室88室(定員178名)
●レストラン「呉竹」
●割烹「帆舟」
●ティーラウンジ「橘」
●総合結婚式場
●駐車場有

伝言板
レストラン呉竹
○ランチタイムメニュー(11:30～15:00)
◆サービスランチ(日替)1000円(税込)
◆スペシャルメニュー　1800円
◆ランチコース　2500円より
○ディナータイムメニュー(17:00～21:00)
◆シェフのおすすめメニュー　2500円
◆お魚コース　4000円より
◆フルコース　6000円より
割烹 帆舟
○昼のお献立(11:30～15:00)
◆すき焼定食・天麩羅定食　1000円(税込)
◆寿司盛合せ定食・お造り定食1200円(税込)
◆帆舟弁当・天麩羅造り定食　1500円(税込)
○夜のお献立(17:00～21:30)
◆おすすめセットメニュー　2500円より
◆京の四季御膳　4000円
◆おまかせ会席　6000円より
○宴会パッケージプラン(税・サ込みフリードリンク)　立食ブッフェ　6500円より

お気軽にご利用下さい
平安会館　TEL (075)432-6181
京都御所・中立売御門前　FAX (075)431-7949

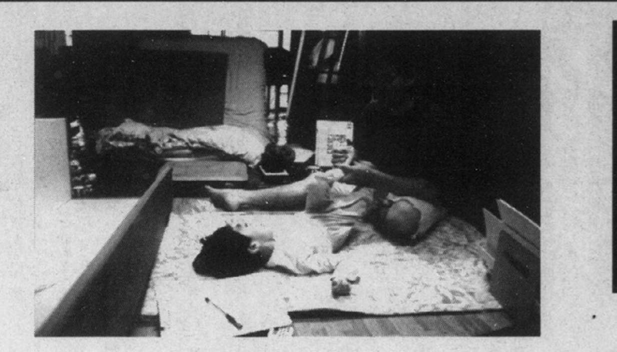
新入社員
大募集中

京都大学新聞サークル室
西部講堂
本部
東大路通り
時計台
東一条通り
A号館
総合人間学部
N

京都大学新聞社
京都市左京区吉田京大構内
TEL (075)761-2054(直通)
753-7531 内線2571
FAX 761-6095

ジョセフ・ニーダム著　東畑精一・薮内清監訳
中国の科学と文明
全11巻——世界的名著の日本語訳
西欧的文明観にパラダイム・ショックを与えた壮大なる書
①巻＝序篇
②巻＝思想史(上)
③巻＝思想史(下)
④巻＝数学
⑤巻＝天の科学
⑥巻＝地の科学
⑦巻＝物理学
⑧巻＝機械工学(上)
⑨巻＝機械工学(下)
⑩巻＝土木工学
⑪巻＝航海技術
▼現在①～⑧巻まで刊行
▼菊版・上製・平均四五〇ページ
▼定価＝各巻とも九九九一円税込
新思索社　東京都新宿区大京町25-3-705(〒160)　☎03-3226-0408　振替00190-2-577814

戦後日本を代表する哲学者の思索的自伝
鶴見俊輔　期待と回想　上・下
少年の日の葛藤。米国留学。プラグマティズムとの出会い。戦争体験。戦後の「思想の科学」などの活動。桑原武夫や丸山眞男らとのエピソードetc。対話による思索的自伝。
各二四一五円(税込)
鶴見俊輔座談／全10巻
日本人とは何だろうか　思想とは何だろうか　学ぶとは何だろうか　近代とは何だろうか　文化とは何だろうか　家族とは何だろうか　戦後とは何だろうか　民主主義とは何だろうか　社会とは何だろうか　国境とは何だろうか
■50年、200人におよぶ対話を集成。各三八七三円(税込)
晶文社　東京都千代田区外神田2－1－12　電話03(3255)4501　振替00160-8-62799



**読書特集号PART 1　個人闘争としての現代美術**

（一面から）

　それから現在の形式ですが、美術の専門的な話なのでここでは簡単な説明に止めておきます。まず美術の持っている強みに、具体的な「物」を提示できることがあります。言葉を用いて何かを表現しようとする場合、一度概念化のプロセスを経なければなりません。それぞれの人はそれぞれの私的な歴史性を担った言語世界（言語ゲーム）に住んでいるのですが、それらの私的言語世界をいったん翻訳可能な普遍的言語世界に変換しなければ、多くの人の間で流通できません。その変換の過程で多くのものが振り落とされてしまいますが、美術作品の場合、概念化の課程をいわば宙づりにしてしまい、概念化の対象それ自体を露呈させてしまうわけです。フォーマリズムの場合は具体的な「物」性をいかにして概念そのものであるかのように見せるかを追求したと言っても良いと思うのですが、私の現在の作品の場合は「物」と概念を明確に区別したうえで改めてその二重制をどう処理するかに問題の焦点があります。その意味で「障碍の問題」と同時に「美術の問題」をも扱っているわけです。この二重制の問題は内容と形式の区分の問題とも言えるのですが、その場合フォーマリズムとは実質的内容の形式への還元であると言い換えられるでしょう。フォーマリズムの立役者グリーンバーグが言うところの「自己批判」あるいは芸術の「純粋化」は現象学的還元そのものです。実際、フォーマリストには現象学が好きな人が多いですよ。

### 外部性をいかに導入するか

## 「物」と概念、ズレの処理

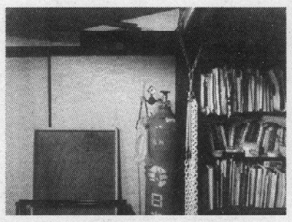
### フォーマリズムを崩していく作業

　それはともかくとして一番新しい作品展では、フォーマリズムの修正、すなわち形式へ還元されざる固有なものをフォーマリズムの手法を用いながら露呈させる、形式＝概念と「物」が親密に一致して閉じようとするただ中に異質な外部性を導入するというようなことを試みています。岡崎乾二郎氏などはフォーマリズムを内側から言わば知的に掘り崩していくことをなさっていると思うのですが、私の場合は私固有の問題を土台としてフォーマリズムを外側から崩していくことを考えています。

**――「現代美術に、他の領域から、いわば他者性を取り込むこと」と書いてありますが、「他者性」とはどのようなものであると考えておられるのですか。また、「他者性を取り込むこと」がいかにして「美術のリハビリテーション」につながるのでしょうか。**

## 「障碍」のもつ豊かさ　「他者性」を引き受けて

　まず、私にとって端的に「他者性」とは障碍をもった子供の他者性のことです。しかし、例えば大澤真幸氏の言うような認識論的な意味合いの他者性とはまったく関係ありません。ある日突然やって来た私の「この」子供、この子供を親として引き受けていかなければならない。この子供を選択の一つとして引き受けるのではなく、既に起こってしまったこの子供との出会いを取り替えのきかない一回限りの「この」ものとして引き受けねばならない、そこでの「この」性が私が考える「他者性」です。すなわち他者一般を成り立たせているところの存在論的あるいは認識論的な意味での他者性ではなく、個別具体的な出会いにおける他者の取り替えのきかなさとしての言わば出来事的な意味での他者性です。それから障碍をもった子供の「この障碍には合理的な意味を付与することはできません。それはこの子供との「この」出会いに合理的な意味が付与できないのと同じです。注意してほしいのは、合理的な意味を付与できないというのは同時に否定的な意味を付与できないということでもあるのです。言い換えれば、無意味も付与できないのです。「この」障碍は単に合理的な意味が付与されないのであり、そこにはある豊かさがあります。しかしある豊かさとは、（あらかじめ与えられた）意味の多様さというものではありません。それは先程私が言った「ヒューモア」と似ています。つまり特定の価値体系なり意味体系から常に既にズレてしまうものとしての豊かさ、たえざる意味生成の現場としての豊かさなのです。「害」ではなく「碍」を使っているのもその豊かさを表すためです。「この」性、とりわけこの子供の「この」障碍のもつある豊かさが、私の考える「他者性」のもう一つの側面です。



### ニュートラルな平面への疑い

## 自己欺瞞からの解放

### 意味生成の鍵は「私の側」にある

　質問の後半ですが、これも美術の専門的な話と関連するので簡単に述べるに止めておさます。まず、フォーマリズムにおける作品は、ニュートラルな空間を背景として内的な形式によって自己完結した作品であると考えられています。その場合のニュートラルな空間とは、具体的な歴史性や地域性と切り離された、ちょうどロックのタブラ・ラサのような真っ白な展示空間が想定されています。意識における一切の実質的内容に現象学的還元を施した後に立ち現れる超越論的主観と同じですね。しかし、そのようなニュートラルな空間は単なる欺瞞でしかないのは明らかでしょう。少し考えても美術館の起源は王侯貴族の収集品ならびに略奪品でしたし、文化的ヘゲモニーとナショナリズムの結び付きは周知のことがらでしょうし、フォーマリズムの成立自体も経済的下部構造に支えられたものですよ。私が目指しているのは、フォーマリズムが能天気に括弧にくくっていた歴史性や政治性を作品の中に自覚的に再導入することです。その場合の歴史性や政治性というのは固有な出来事の集積あるいはミクロな権力関係の束のことであり、私の考える「他者性」がまさにそのようなものです。

　少し話が変わりますが、障碍に関することを考える場合、たいていの人は自分は「健常者」だという暗黙の前提のもとに考えるでしょう。しかし健常者というニュートラルな人々の地のうえに障碍者という特定の人々の図があるという構図、あるいは障碍者という外部をもつことで健常者という内部が規定されるという構図は歴史的に形成されたイデオロギーにしかすぎません。私は常々すべての人はみな障碍者であると考えていますが、それはニュートラルな健常者などいないということ、障碍の問題はすべての人が何らかの関わりをもつということです。それはちょうど、歴史性や政治性から無縁なニュートラルな場のうえに美術が成立し得るなどというのは欺瞞でしかないのと同じことです。「他者性」すなわち私にとっての「この」障碍をもった子供との関わりの中での経験や考えを作品に取り入れることは、美術をそのような自己欺瞞から解放することにつながります。「美術のリハビリテーション」とはニュートラルな場あるいは形式への還元による自己純化という束縛から自らを解放し、歴史性や政治性という意味生成の現場に立ち会うことにあります。

**――最近は行政がパブリックアートに力を入れたり新設の美術館が多数できたりしており、現代美術作品に触れる機会は多くなっています。しかしまだ一部のプロパーを除いて、難解でとっつきにくいと感じて敬遠している人が多いように思われます。そのような人々に対して、最後に一言なにか話していただけませんか。**

　まず、現代美術が難解だと思われて敬遠されるのは不幸なことですが、その責任の大半は我々にあると思います。ただ、難解だからだめでもっと皆に分かりやすいものにしないといけない、という議論はあまりにも単純すぎます。実際、現代美術作品の多くは例えばティツィアーノやセザンヌの作品と比較してあまりに分かりやすくて単純な構造になっています。皆に分かりやすいというのは、単に作者にとって創りやすい、という事態になってしまうのです。問題なのは、難解かどうかということではなく、一部のプロパーの中だけで閉じてしまっていることなのです。それは我々の側の問題なのでここでは置いとくとして、一つだけ皆さんに望むことがあるとすれば、作品を見る時には、自分がどんな見方で美術作品を見ているかということに常に自覚的でいてほしいということです。言い換えれば鑑賞している自分と作品あるいはその背後にある美術制度がいかなる関係をもっているかを考えてほしいですね。理論や批評は知っているにこしたことはありませんが、きめられた解釈や鑑賞の仕方などないのですから、まずは自由にしかし自覚的に多くの作品に触れてほしいものです。

**どうも本日はありがとうございました。**

（文責　六田俊二）

## 生協ベストセラー

西部生協ルネ調べ

97年9月1日～9月30日

| 順位 | 書名 | 著者 | 出版社 | 冊数 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 倫理なき資本主義の時代 | 本山美彦 | 三嶺書房 | 243冊 |
| 2 | 経済思想 | 八木紀一郎 | 日本経済新聞社 | 206冊 |
| 3 | 現代統計学を学ぶ人のために | 吉田忠 | 世界思想社 | 111冊 |
| 4 | Linux Japan |  | 日経IPS | 88冊 |
| 5 | 金融 | 池尾和人 | 有斐閣 | 75冊 |
| 6 | 建築学がわかる。 |  | 朝日新聞社 | 68冊 |
| 7 | 環境経済学 | 植田和弘 | 岩波書店 | 61冊 |
| 8 | 原初的コミュニケーションの諸相 | 鯨岡峻 | ミネルヴァ書房 | 59冊 |
| 9 | 物理化学 | ピーター．W.アトキンス | 東京化学同人 | 54冊 |
| 10 | ソロモンの新有機化学 |  | 広川書店 | 50冊 |

---

## レスビアンの歴史

リリアン・フェダマン 著

富岡明美　原美奈子 訳

# 一人一人の場所の確認

**佐藤公美**

　この本を最初に読んだとき、わたしはその記述の細やかさに思わず息をのんだものだった。なにせ二〇世紀アメリカのレスビアン達の息づかいが手に取るように感じられるのだから。この本は全体が今世紀初頭からほぼ十年単位に章分けされているが、そこからはめまぐるしく転変する現代史とぴったり歩みをともにした彼女達の姿が鮮やかに浮かびあがってくる。

　女どうしの深く親密な関係が「ロマンティックな友情」と呼ばれて賞賛されていた一九世紀末。性科学の隆盛とともに「病理」化されて「変態」の烙印を押された世紀初頭には、女をことだけではなく当時のジェンダー規範からはずれた「女らしくない」振る舞いをする女性達は一律に「レスビアン」というレッテルを貼られた。二十年代、いわゆる「性の解放」が高らかに宣伝され謳歌された時代は、同時に一種の刺激的な見せ物として同性愛を「消費」し、一方で「自由」「解放」という謳い文句のもとに、性的に自立し解放されていることの証としての男とのセックスに女達を駆りたてた、露骨な強制異性愛の時代がはじまった。景気の悪化とともに「解放」ムードも後退し、保守的な雰囲気に包まれた三十年代。戦時下の軍隊勤務の中でレスビアンどうしの出会いの可能性も広がった四十年代。戦後五十年代にはマッカーシズムによる弾圧をうけ、軍隊から、職場から、同性愛者は次々に追放されていった。六十年代以降のゲイ解放運動、性愛の中にまではびこった男性による支配を覆すために「政治的」にレスビアンになることを選んだレスビアン・フェミニストの増大、レスビアン・セックス論争、そして八十年代に明確化する、レスビアン・コミュニティ内部のマイノリティ集団への分裂…。

　フェダマンは夥しい数の手紙や日記、そして同時代人証言によってこの「歴史」を書き上げたが、自ら繰り返しのべるように、「レスビアン」とは何かを定義づけることは決してない。彼女は言う。「〈女どうしの愛〉の定義づけにも、その愛を基盤にした社会生活にも、政治的行動にも、普遍的なものなどいっさい存在しないのである。」このように言い切ることを可能にしているのは、彼女がもつ歴史に対する批判的視点だろう。彼女は様々な集団の中の差異に細やかに目を配る。労働者階級と中産階級の差異、白人レスビアンによる差別に対する有色人レスビアンの批判、年をとったレスビアン、障害を持つレスビアン、太ったレスビアンらによる批判。「レスビアン」とは何者かという定義を、レスビアン自身が乗り越え、自分自身の生き方を表現しようとする動きこそが「歴史」であり、その現場を離れた定義は決して存在しない。

　わたしがフェダマンの仕事から強い印象を受けるのは、レスビアン自身が定義を乗り越えるダイナミズムを描くことによって、定義を与える権力の姿をも描き出しているからだ。『レスビアンの歴史』は同時に強制異性愛社会それ自体の歴史でもあるし、レズビアン・コミュニティー内部での「規範」もまた強制性と抑圧性を抱えているという事実がいかにして問い直されてきたかの歴史でもある。

---

　この本を読んでいると、二〇世紀とは常に誰かが何かを規定し排除してきた百年間なのではないか、とふと思う。異常なもの。少数者。弱者。『自分たちとは違うもの』。それらを名付け分類する力を与えられたもの、すなわち常に被抑圧者を括り出さなければ存在できない者達の名簿を積み上げてきた百年間。「解放」がそこに名前を書き加えられることを意味するだけならば、あまりにも悲しい。力を持つことを目指すのではなく、力が意味をもつようなあり方を乗り越えること。それを社会的に実現していくことで「解放」を獲得したい、なんてことをこのごろよく思う。

　私はセクシュアリティーを「〇〇である」という名前の問題にはしたくない。レスビアンというものが実体として存在するわけではなく、それぞれに異なる個々人の、一つ一つの経験の積み重ねがあるだけなのだと思う。その経験の中で強制異性愛社会の壁にぶつかった時に、そこに向き合うために立つ場所を指す呼称として「レスビアン」が選ばれる。ゲイ、バイセクシュアル、ヘテロセクシュアル…すべてがその呼称なのではないだろうか。たとえ「多様性」が受け入れられ同性愛者の存在が認知され理解されたとしても、そしてその違いにひとつひとつ名前がつけられたとしても、強制異性愛社会に向き合おうという視点がなければそれにはなんの意味もない。たとえばあなたがヘテロと自分を呼ぶのなら、ヘテロの場所で、「強制」といかに向き合うか―それを考えていくこと阻む理由はなにもない。

　日本語版初版発行いらいもうじき一年になろうというこの本は、これまでどのように読まれてきたのだろうか、という思いがふと頭をかすめる。「レスビアン」を描いた本としてだけではなく、一人一人の場所を照らしだすものとして、読まれていって欲しいと思う。読むこと、そして知ることは、あなたの場所から動き出すための始まりにすぎないのだから。

（さとうひとみ氏は京都大学文学研究科西洋史学専攻）

ODD GIRLS AND TWILIGHT LOVERS
A HISTORY OF LESBIAN LIFE IN TWENTIETH-CENTURY AMERICA
LILLIAN FADERMAN
レスビアンの歴史
リリアン・フェダマン著 富岡明美 原美奈子訳

▶レスビアンの歴史／筑摩書房／四千八百四十一円

---

# INFORMATION

●結婚改姓を考える会十月例会―事実婚と相続について

日時：十月二十五日（土）二時から四時半／場所：クレオ大阪西（〇六―四六〇―七八〇〇）JR環状線「西九条」駅三分／参加費：無料／主催：結婚改姓を考える会／連絡先：緒方由紀子（〇七九八―五二―九五〇六）

●公開学習会・文京洙氏「四・三事件の歴史的評価をめぐって」

日時：十月三十一日（金）十九時から／場所：大阪市立弁天町市民学習センター第二研修室（JR大阪環状線・地下鉄中央線「弁天町」下車「OAC二〇〇」七階）／連絡先：〇六―五七七―一四三〇／主催：国際シンポジウム「東アジアの冷戦と国家テロリズム」日本事務局

●「海人（ウミンチュー）」安里勇・八重山情唄コンサート―滋賀・大津―

日時：十月二十七日（月）十九時から／場所：たべものや「よもぎ」二階（大津市中央二丁目）／連絡先：〇七七五―二七―一一七三

●関西熱帯木材使用削減委員会・報告会「熱帯林を守るために―日本の公共建築・住宅・家具を問う」

日時：十月二十六日（日）十三時から十六時／場所：大阪市アピオ大阪（JR森ノ宮駅下車）／参加費：五百円／講師：熊崎実／連絡先：〇七八―八五一―二七六〇

●クロード＝ランズマン監督作品『SHOAH』上映会

日時：二月八日（日）／場所：京都北文化劇場（〇七五―四九三―〇五六七）／主催：エースピクチャーズ（東京都文京区本郷五―二十四―五）／連絡先：〇三―三八一七―六七一六

●東九条マダン

日時：十一月二日午前十時から（雨天決行）／場所：京都市立陶化中学校（地下鉄「九条駅」徒歩三分）／内容：韓国・朝鮮の農楽、マダン劇、相撲大会、サムルノリと和太鼓共演など、その他出店多数／参加費：無料／主催：東九条マダン実行委員会／連絡先：〇七五―六六一―三二六四（東九条マダン実行委員会事務局）

●マイ・マイ・フェスティバル

日時：十一月十六日（日）十一時から十六時（雨天決行）／場所：大阪府同和地区総合福祉センター（JR「芦原橋駅」徒歩五分）／内容：プカソンコー（ペルー）、エイサー（沖縄）、サムルノリ（コリア）などのステージ・イベントやエスニック料理の出店多数／主催：九十七マイ・マイ・フェスティバル実行委員会／連絡先：〇六―九一〇―七一〇三

●沖縄・アジアの民衆とともに新ガイドライン・有事体制を撃つ！―ふたたびアジアに銃を向けないために―

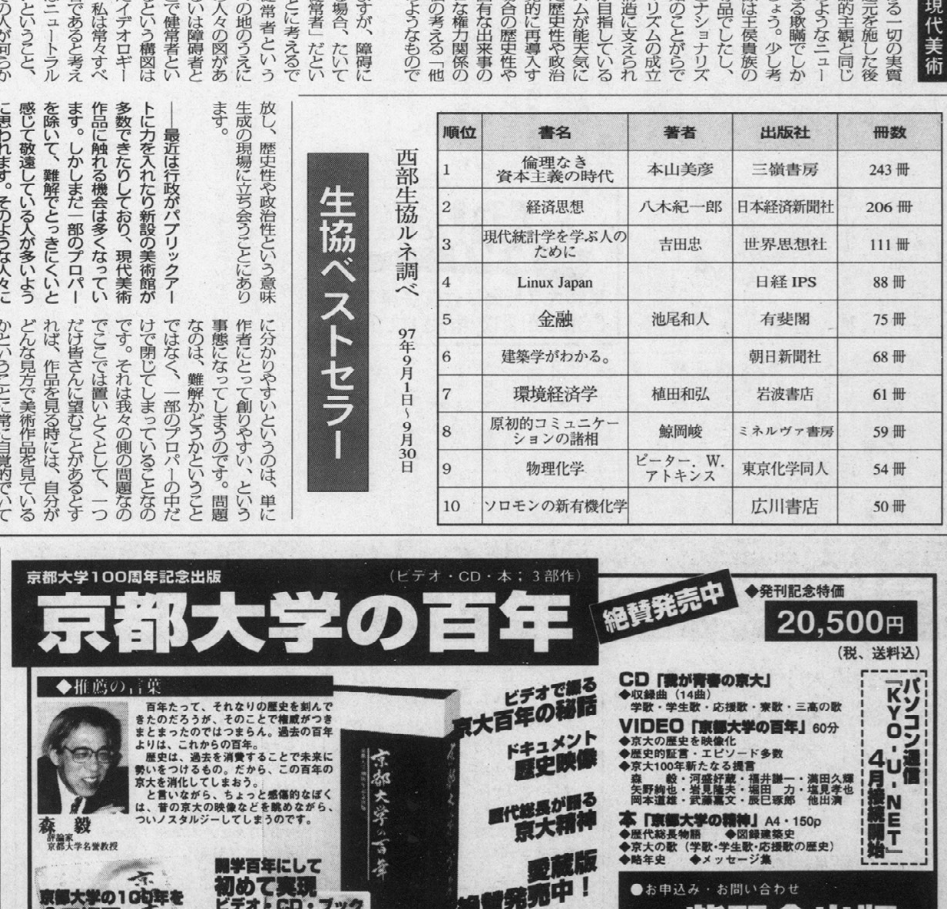
日時：十一月二十三日（日）午後一時から／場所：京都大学吉田構内「十一月祭」会場内／講師：新崎盛暉（沖縄大学教授、一坪反戦地主会代表世話人）・徐勝（立命館大学講師）／主[illegible]めの行動『あくと』／連絡先：京都市左京区吉田近衛町京都大学吉田寮気付（〇七五―七五三―二五三七呼）

●レクチャー&シンポジウム『JAPANESE』―二十世紀後半の日本における美術、デザインの理論と実践を考える

日時：十一月八日（土）十三時から十八時／場所：成安造形短期大学内百三十一教室／参加費：無料／対象人数：約百名程度／司会とパネラー：丹生谷貴志、高島直之、小西信之、岡崎乾二郎／連絡先：成安造形短期大学総合芸術研究所（京都府長岡京区調子一丁目二五―一）〇七五―九五三―一一一一

---

関東は八王子に　ケッタイな会社あり
株式会社　詩林堂
デジタル・コンテンツ制作／ソフト開発・ローカライズ請負
（UBA［オープンシステム推進機構］会員企業）
さらに、出版業界にも進出を目指す！
詳しくは→http://www.siri.co.jp/にアクセスを
インターネットのケッタイな“書評本屋”『厳選館』Coming Soon!
http://www.siri.co.jp/GENSENKAN


京都大学100周年記念出版　（ビデオ・CD・本；3部作）
京都大学の百年
絶賛発売中
◆発刊記念特価　20,500円（税、送料込）
◆推薦の言葉
百年たって、それなりの歴史を刻んできたのだろうが、そのことで権威がつきまとまったのではつまらん。過去の百年よりは、これからの百年。
歴史は、過去を消費することで未来に勢いをつけるもの。だから、この百年の京大を消化してしまおう。
と言いながら、ちょっと感傷的なぼくは、昔の京大の映像などを眺めながら、ついノスタルジーしてしまうのです。
森毅　評論家　京都大学名誉教授
ビデオで綴る京大百年の秘話
ドキュメント歴史映像
歴代総長が語る京大精神
愛蔵版絶賛発売中！
100人の合唱団・応援団・ソリストによる母校の歌
開学百年にして初めて実現　ビデオ・CD・ブック
京都大学の100年を全て網羅した画期的多元的三部作
見る・聞く・読む　京大の歴史
CD「我が青春の京大」
◆収録曲（14曲）学歌・学生歌・応援歌・寮歌・三高の歌
VIDEO「京都大学の百年」60分
◆京大の歴史を映像化
◆歴史的証言・エピソード多数
◆京大100年新たなる提言
森毅・河盛好蔵・福井謙一・満田久輝
矢野暢也・岩見隆夫・堀田力・塩見孝也
岡本道雄・武藤嘉文・辰巳琢郎　他出演
本「京都大学の精神」A4・150p
◆歴代総長物語　◆図録建築史
◆京大の歌（学歌・学生歌・応援歌の歴史）
◆略年史　◆メッセージ集
パソコン通信『KYO・U・NET』4月接続開始
●お申込み・お問い合わせ
（株）紫翠会出版［京大会館隣］
TEL.751-2561
FAX.751-6922

# 学のインターフェース

自著を語る●6

「離散するユダヤ人」　小岸昭

## 流謫者の歴史を追う旅の途中で

一四九二年のコロンブスのアメリカ「発見」の裏側には何があったのか。

その年、アラブ最後の王ボアブディルはカトリック両王フェルナンドとイサベルによってグラナダから追放され、ユダヤ人は追放か洗礼かの二者択一を迫られた。歴史のこのような裏側の事実をはじめて知ったのは、一九八八年のドイツ滞在中のことだった。さらに、「水晶の夜」五〇周年にあたるこの年の秋に出版されたフリッツ・ハイマンの遺稿『死か洗礼か』によって、古いスペイン語で「豚」と呼ばれ侮蔑された改宗ユダヤ人「マラーノ」の存在もはじめて知った。追放されたスペイン系ユダヤ人「セファルディ」も、祖国に生き残るためカトリックに改宗したマラーノも、一方は見知らぬ土地への、他方は自己の内面への流謫を強いられた人々である。離散したセファルディとマラーノの足跡を訪ね、モロッコからカイロを経てイスラエルへと旅をしながら、その「流謫」の意味を考えようとしたのが、本書のねらいであった。

一九九三年のモロッコの旅で、私はマラケシュの荒寥とした圧倒的な「非・場」の月面風景のなかにマラーノの墓を見た。追放されたセファルディやマラーノは長い年月をかけて、この砂漠に近い異邦の地にたどりつき、安住の地を見出せぬまま土塊のなかに埋葬された。この流謫者たちは、彼らに憎悪を抱く大地を去り、自分たちの魂の栖（すみか）をあたかも空の彼方に見つけて、まさしくそこから飛び立とうとしているかのようだった。ヨーロッパ列強主導の近代五〇〇年の歴史に対する批判の原点とも言うべきマラケシュのユダヤ人墓地に立って、私はこのような流謫を教義化したカバラ主義者イサーク・ルリアの墓を、次なる旅の目的地と決めたのである。

一九九四年九月、イスラエル北部ガリラヤ地方の高原都市サフェドで、ルリアの墓を見つけた。三十八歳の時コレラに罹患して早世したこのカバラ主義者によれば、神が自己自身の内部に収縮・撤退したため、神不在となった原空間は悪が跳梁する世界となり、こうしてユダヤ人はそのなかをあてもなく彷徨わなくてはならないという。この教説「ツィムツム」論は、一般に理解されている範囲を遥かに越えて、ドイツ観念論の潮流に流れ込んでゆき、ショーレム、ベンヤミン、ブロッホといった二〇世紀の思想家たちにも大きな影響を与えたのである。

ところで、壊れた器の破片に付着している聖なる火花を神格へと結びつけるという、ルリアの「器の破壊」理論の最終段階「ティクーン（修復）」は、八方に離散しているユダヤ人に課せられた使命だとされている。だが、このことをつきつめてゆけば、当然のことながら、ユダヤ人の領土再獲得運動としての急進的なシオニズムの肯定にもつながりかねない。そのような肯定の立場に立てば、現在ユダヤ国家のなかで、かつてのマラーノのような流謫を強いられているアラブ人の苦難の姿は見えてこないだろう。

スペインからのユダヤ人の追放と流謫に近代的なカバラ解釈を与えたイサーク・ルリアの墓を探し出す目的のほかに、もうひとつイスラエルで確認したいことがあった。それは、ジョン・バエズの名唱で知られるあの物悲しい「ドナドナ」の詞が、ヘブライ語で「我が主」を意味する「アドナイ」の短縮形であるかどうかを直接現地のユダヤ人に尋ねてみようということだった。地中海に面した古い港町ヤッフォで、この歌が生まれたナチス占領下のポーランドの事情に詳しい何人かのユダヤ人に尋ねてみたが、いずれも「違う！」という答えがかえってきた。期待を裏切られながら、後ろ髪を引かれる思いでイスラエルを後にしたのだが、ついに待望の「アドナイ」由来説にめぐりあったのは、帰りがけ寄ったドイツで偶然にも詩人ビーアマンの著書をひもといた時だった。こうして、「ドナドナ」を口ずさむ人の意識の背後にまで、離散ユダヤ人の苦難の歴史が秘かに流れてきていることを明らかにするのが、私の旅の目的のひとつだった。

ところで、このイスラエルの旅をしながら、東欧出身のアシュケナージが圧倒的な優勢を誇るこの国において、「国内に居住する不在者」と呼ばれるアラブ人や、そのさらに底辺に、国からなんの権利も認められていない「存在する不在者（プレゼント・アブセンティーズ）」という忌まわしい烙印を押されたアラブ人が存在することを知った。また、セファルディが二千年の離散の後ようやく先祖の国に帰還できても、そこで相変わらず差別を受けている事実も明らかになってきた。このような帰属意識を危うくされているユダヤ国家の人々について考察することを次の課題としながら、私はウィーン行きの深夜便でベングリオン空港を発ったのである。

（こぎしあきら氏は総合人間学部教授）

▲離散するユダヤ人―イスラエルの旅から―／岩波書店／六百五十円

---

**FEMINIST THEORY**
**from mergin to center**
（邦訳：『ブラック・フェミニストの主張〜周縁から中心へ〜』）
ベル＝フックス 著　清水久美 訳

## 今のフェミニズムに抜け落ちている視点

増田仁

「一億総中流」あるいは「単一民族国家」といったイデオロギーがはびこる日本において、フェミニズムを語る人々は階級や人種、民族という視点を欠落させて議論をする傾向がある。また「男性優位社会」において、sex（生物学的性差）を根拠にしたジェンダー化が行われていることを批判する「フェミニスト」自身が、sexとしての女の位置に自らを同一化して語ろうとする。そのため「女性」を「男性」優位社会における画一的な被抑圧者とみなし、女／男という二項対立的なパースペクティヴだけで、多くの現象を批判しようとする。「フェミニズム」と名のつく本を無差別に読み進めるうちに、私はこの単純で二項対立的な視点だけでは、個別具体的な女性／男性の現状を（自分のそれを含め）説明しきれないと考えるようになった。

また自分自身の無知から政治運動に対し恐怖心を抱いていた私は、具体的な政治課題を持たない「フェミニズムのサークル」というものを希求していた。フェミニズム理論を学んだり、女性の現状について情報交換をしたり、フェミニズムという視点から映画や小説を分析し合ったりする場として、そのサークルを機能させようとした。だが活動を続けるうちに、サークル内部に漂う「〝女らしさ〟を全面に出してはいけない」、あるいは「自分自身を語れ」という無言の圧力に息苦しさを感じるようになっていった。このような時に読んだのが、ベル・フックスのこの著書だった。

フックスは以下のように主張する。フェミニズム運動の主流を占める「ブルジョワフェミニズム」は、彼女たちと同じ特権階級に属する男性との社会的平等を目指しているにすぎない。白人優位の資本主義社会において、性差別を受けている個人がどの程度抑圧されているかは、人種や階級によって異なる。したがってフェミニズム運動の参加者は、人種や階級による抑圧を踏まえて女性の状況を語る必要があり、家父長制だけでなく白人優位主義や資本主義社会にも、批判の目を向けねばならない。そしてフェミニズム運動は性差別の抑圧をなくすために、社会変革を目指す政治運動として取り組まれるべきである、と。

たしかに人種や階級という視点を導入すると、主流派フェミニズム運動がもつ抑圧性が見えてくる。その一例が、欧米や日本を含む「第一世界」のフェミニストがアラブ・アフリカの女子割礼を批判する際に用いがちな植民地主義的な言説である。またフェミニズムを社会変革のための政治運動と規定し、個別具体的な課題を設定することによって、私が「フェミニズムサークル」で感じたような参加者同士が他者のアイデンティティーやライフスタイルにのみ関心を寄せ合う危険性を防ぐことができる。CR（意識高揚活動）も個人的な生活史における男性支配を語り合う（語らせ合う）ことに始終せずに、批判的で政治的な意識獲得の手段として利用する道がひらけてくる。

ではフェミニズム運動において、批判的で政治的な意識を獲得するとはどういうことなのか。まず男性優位の二元論的な思考様式や賃金等の数量化によって優劣を決めようとする資本主義社会に流布した価値体系を切り崩し、ステレオタイプ的な女性像を捨て去ることである。そして女性の現状をとらえなおし、彼女たちが手にしているパワーを社会変革のために用いる方法を見いだすことであるとフックスは述べる。具体的な運動方法として、彼女は消費活動の組織化を挙げている。既成の価値体系のもとでは、女性が行う消費活動は男性が行う生産活動ほど社会に与える影響力は大きくないと見なされている。だが組織化された消費活動を行うことで、流通に打撃を与え、現在の政治的・経済的構造に揺さぶりをかけることができる、と説く。

フックスはジェンダーのみならず人種や階級によって抑圧された者の視点から、白人・男性中心の資本主義社会を批判し運動を展開する。この視点は日本の主流派フェミニズムにおいても「特殊な例」として軽視されてきた。階級や民族等の差別に無関心になりがちな日本のフェミニズムを批判し有効な戦略をたてる上で、この周縁に位置づけられたものの視点こそ中心をしめるものである。これが「周縁から中心へ」のフェミニスト・セオリーである。

（ますだめぐみ氏は教育学部三回生）

FEMINIST THEORY
from margin to center
ブラック・フェミニストの主張
周縁から中心へ

▶「ブラック・フェミニストの主張」／勁草書房／二千六百七十八円

---

## 編集部より

■読書特集号PART２のお知らせ

今号も、弊紙をご愛読いただき、ありがとうございます。京都大学新聞では、今回のPART１にひきつづき、読書特集号PART２を十一月下旬に発行する予定です。

内容としては、書評・「白色テロル」／「ピンク・トライアングルの男たち」／「公爵夫人の午後のパーティー」／「分断を生きる」／「西日本の干潟」など。

その他にも、新連載まんが評「オムカエデゴンス」／京大文学事情／詩林堂・バーチャル書店紹介／出版社探訪などを予定しております。

また、ＮＦ（十一月祭）直前には、公演企画を中心に取り上げたＮＦ特集号を発行いたします。

発行が大幅に遅れており、読者の方々にはご迷惑をおかけしまして、大変申し訳ございません。

より充実した紙面づくりのため、編集員一同努力いたしますので、今後も京都大学新聞をどうぞよろしくご愛読ください。

---

## 『安部公房全集１』発刊を記念して

森田美仁

# ある詩人の〝死と再生〟

## ——小説家・安部公房、誕生の軌跡

《神よ
せめて一本の　木の様であって
下さい》（「祈り」『無名詩集』）

まず収められた詩の一部を引用することから始めたが、まったく実に、本書は〝小説家〟安部公房が若いころに書いた、数多くの詩に触れさせてくれる。

『安部公房全集１』のテーマの一つは、たぶん〝詩人の死と再生〟であり、より広くいえば〝作家の誕生〟である。いや。そもそも一九四二年一二月から四八年五月までの安部の文章を編年体にまとめただけの全集であるから、それは本書のテーマというよりは一人の作家の軌跡でしかないし、そうなると彼の出発点を余さず収録した書物が〝作家の誕生〟をテーマとしていることは当然すぎるほど当然なことでしかない。にもかかわらず、そうした意味以上に、本書は〝詩人の死と再生＝作家の誕生〟を大きなテーマの一つにしているように思われるのである。

その明らかな現れは、要するにこの時期の安部が、書くことの意味について考え、あるいはより正確にいうなら、渇望する心のまま書かなければならないゆえ〝いかに書くか〟について戸惑いながらも試行錯誤をくり返さなければならなかった様子に見て取ることができる。まさにそれは、単なる表面的な状況を超え、内面的な意志によって〝いかに書くか〟への解答が生み出される過程を示しているといえる。

成年にいたりつつある人間にしばしば訪れる、素朴な孤独と絶望と自負という表現を間に挟みながらも、戦中戦後世代の時代的な心の飢えを表しつつ吸収し代表していったこの作家にとって（またそれは後に〝物質的な飢え〟という仮の表現を経なければならなかったが、そのことについては本稿の主題を越える）、〝何を書くか〟は天性の才が無意識に教えてくれるところであった（このことは後に彼がいくつものエッセイやインタヴューで語った創作の秘密に明らかである）。

だが〝いかに書くか〟については、この時期、冒頭の「問題下降に依る肯定の批判」に始まり、末尾に収録された「名もなき夜のために」に至るまで、エッセイ、小説、詩、どのような形式や表現をとろうとも、常に意識的に追求されるのみならず、書かれるべき＝探究されるべき主題の不動の一つとなり続け、彼を悩ませ続けたのだった。

そのことは、何も、彼が技法や直接的な意味での文体について不安を抱いていたということを指し示すものではない。さすがにエッセイでは言葉と思想が乖離し、自分が表現しているものの意味に気づかず、独自の用語をやたらに用いたあまりに原理的な内省がなされるものの、彼が小説で用いる語り口調は、若書きらしい観念性や言い訳じみた舞台装置を残すとはいえ全体としては乾きユーモラスな、リルケの存在象徴への肉薄をすでに示しており、その意味での悩みは取り立てて重要ではなかったとみえる。

むしろ〝いかに書くか〟は、ここでは、より間接的な意味での文体のことであり、文字表現の仕方ではなく思考表現のとりかたのことである。そしてこの意味での〝いかに書くか〟が集中的に表されているのが、例えば、《自分の存在の確認の為に》《詩以前の事》を書こうとした連作小説「第一の手紙」から「第四の手紙」において、《運命の顔》となってしまった男に語らせた次のような一文である（もっとも、本編は小説というより後年ときにみられた〝物語化されたエッセイ〟といったほうがいいかもしれない）。

《此の説明できない論理は、記号化せずに存在を体験することだった。しかも私は、そこから生まれて来るものの予感も知っていた。

それは即ち詩だった。》

このごく短く未完の小説こそ、本全集において最も注目すべき作品の一つであるように思われる。それは、安部公房の青臭く無分別に拡散した精神が次第に落ちつき収束し、やがて一つのベクトルとなって、最後の本格的な詩作としての『無名詩集』からデビュー小説『終わりし道の標べに』の長い思索、さらに次のステップへといたる道、本書のハイライトを、本作が見事に代表し指し示しえているからにほかならない。

「第三の手紙」にいたり〝《運命の顔》の物語〟はようやく始まるが、《運命の顔》と称されるマスクをかぶって、はずせなくなってしまった男が鏡を覗き、そこに以前と寸分たがわぬ自分の顔を見出すシーンは実に示唆的である。マスクをかぶったことは事実なのに、かぶられたマスクはどこにも存在を見出せない。それは、他人になった自分が持つ関係性を描くことで存在の危うさを語ろうとした後年の『他人の顔』に見たところ酷似するが、むしろ、本集収録時期の翌年に書かれた芥川賞受賞作「壁　S・カルマ氏の犯罪」の起点、逆に他人が自分になる、あるいは自分の思いをはみ出す自分の存在に気づくという、ある意味では若者に特有の、しかしやはり人間存在に基本的な、切り口から存在の危うさへといたる方法に率直に通底するものがある。

また、かぶるとただちに見ることも触ることもできなくなってしまったマスクを着けたこの男が、《顔こそ変化を来たさなかったが、それ所ではない変化が私の内に起り始めていた。それは私の存在を根底から引ゆるがす様なものだった。》と語るシーンは、「壁」と同時期に書かれ同じく作品集『壁』に収められたもう一つの中編小説「バベルの塔の狸」の、狸状の生物に影を食べられてしまったため姿が見えなくなる（本来なら姿が見えないから影がない、という順序のはずなのに）場面に連なる。これらは一見すると単なる因果関係の逆転にすぎないようだが、しかし、精神の身体的な存在形式を見事にばっさり切りとりえたものといえる。

このような作品を経たものの、だがまだ〝いかに書くか〟は分からぬまま、『無名詩集』は書かれねばならなかった。それは、冒頭の名高いエピグラフにおいて、《私の真理を奪ふのは常に名前だった》と唱える通り、与えられた名前の虚偽、途端に固着しやがて事実を傷つけ損ない始める〝名づけ〟という行為の必然的な失敗を知るがために、真理に背を向けることを選びとらない限りは、何かが常に書かれていなければならなかったからである。後年、〝なぜ書くか〟と問われた折、安部は、《作家にとって創作は生の一形式であり、単なる選択された結果ではありえない。「なぜ」という問いが「生」の構造の一部であり、生きる理由に解答がありえないように、書く行為にも理由などあるはずがない。》と総括的に答えてもいる。

しかしまた、詩という形式は安部にとってあまりにも容易すぎ、それゆえ新しい創造を成すための苦しみを得ることができないと思われたのだろう。『終わりし道の標べに』や『名もなき夜のために』で、彼は、苦しみのための苦しみめいた苦しさの内でくり返しくり返し思索を続ける。先の逆説に似て、新しい創造が苦しんで生まれるというより、〝苦しむ〟という行為からこそ新しい創造が生まれることがあるのかもしれないのである。そうしたことがあって、ドナルド・キーンが指摘するように（『波』一九九七年三月号）、安部は、若い時分に書いたいくつもの詩を大切に保管し続けながらその刊行は決して行わなかったし、既に刊行された『無名詩集』についてはついに再版することがなかった。友人への手紙に《つまり私達には心より指が必要ですらあったのです。》と記した安部は、まさにかのリルケの徒であった。しかしまた、《先ず見る事》から始めた思索を、詩の形にまとめることは彼の場合あまりにも容易すぎるように思われた。だから彼は小説家となったのだが、しかし彼の短編小説は基本的には一つの詩に書かれるべき中心的なイメージから始まって、その周回軌道を回り続け、長編小説はそのイメージの磁場を苦しんで離脱し、果てしなき彼方へと飛行し続けることによって創造された。彼は、根本的な意味での〝いかに書くか〟について、得られた形質である詩人という位置に安住することの拒絶という解答を選び、文字にその存在を刻みつけることになるのである。

思えば、先の「バベルの塔の狸」の最後は、次のように結ばれていたのだった。主人公である貧しい詩人はバベルの塔から物語の冒険への帰還をはたし、再び現れた狸状の生物めがけ、創作のためのメモを書き溜めていた大切な手帳を投げつける。

《つづいて手あたり次第の小石を拾って投げつけました。病的な詩[illegible]逃げ去った後でも、まだなかなか投げやめることができませんでした。それから急に死ぬほど腹がすいていることに気付きました。もう詩人ではなくなったのですから、腹がすくのが当然なのでした。》

〝小説家〟安部公房は、〝詩人〟安部公房の死とその再生を通じ、誕生したのである。

（本紙編集員）

安部公房

---

レズビアン？
ゲイ？
バイ？
ヘテロ？
..........？

毎週水曜日夜にA号館地下で
ミーティングをやってるよ！

オカマのこと、強姦のこと、ジェンダーのこと
おたくのこと、レズビアン・ゲイ・パレード、
自分に自信を持つこと、SM、などなど、考える
ことや表現するはいっぱい！

プロジェクトP

連絡先
レズビアン？ゲイ？バイ？ヘテロ？......？生と性はなんでもありよ！の会
プロジェクトP　京都市左京区北白川東久保田町58　ポンポコハウス気付
Tel/Fax 075-723-4421　E-mail hibino@mbox.kyoto-inet.or.jp
http://web.kyoto-inet.or.jp/people/hibino/group/ProjectP/ProjectP.html

生と性はなんでもありよ！の会

ゲイの11月祭天国！報告集

ゲイの天国
11月祭
トーク・セッション
浅田彰
＋
平野広朗
レズビアン
ゲイの
サークル紹介
便利な用語集

浅田彰＋平野広朗
ゲイアクティビズムの可能性
——ヘテロ社会への提言

簡単な用語集
サークル紹介
なども掲載！

B5版
147頁

お問い合わせ
レズビアン？ゲイ？バイ？ヘテロ？......？生と性はなんでもありよ！の会
プロジェクトP　京都市左京区北白川東久保田町58　ポンポコハウス気付
Tel/Fax 075-723-4421　E-mail hibino@mbox.kyoto-inet.or.jp
http://web.kyoto-inet.or.jp/people/hibino/group/ProjectP/ProjectP.html
ご購入は、郵便振替口座「01040-1-23095 プロジェクトP」まで「ゲイの11月祭天国報告集希望」と明記して890円（送料込み）を入金してください。

# 存在に意義がある

## 逆境の中、あえて文芸誌を創刊した海越出版社の心意気

文芸誌に限らず、情報誌や漫画雑誌を除いた出版事情が年々厳しくなっているといわれて久しい。規制緩和論流行の余波が簡単に再販価格維持の見直しへたどり着いてしまうのにも表れるように、そもそも文芸が私たちの暮らし・人生にどのような位置を占めるかへの一定の共通諒解が損なわれているともいえる。そのような中、昨年あえて文芸誌『小説海越』を新たに創刊した小埜寺弘尚氏に話を聞いてみた。

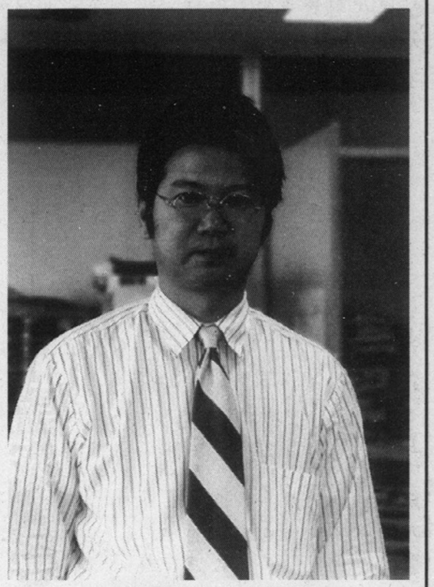
**——まず、新しく『小説海越』を旗揚げなさった経緯についてお話しください。**

小埜寺　『小説海越』が創刊された一九九六年の下半期は、吉本ばななや小林恭二らをデビューさせた『海燕』が休刊した時期と重なります。一部の老舗・大型書店を除いては、書店に行けば文芸誌を探すのに苦労したり、そもそも書棚に入っていない本屋さんが少なくなかったりしますし、「（純文学の）文芸誌は売れていない」という一般的なイメージは既に浸透していますから、『海燕』の休刊の知らせは多くの人々にとって、「やはりな…」という感覚でしょう。この時期に商業出版社として文芸誌の出版を考えること自体、リスクの大きい、あり得ない発想といっていいはずです。

### 新人発掘の場

それでも発刊に踏み入ったのは、わが社が単行本として堀田あけみ、村上政彦、川本俊二、あるいは宮城谷昌光らの小説を出版するようになったこととリンクして、小説家志望の方やまだ無名の新人ですが、これは有望と思われる作品を寄せられるケースが非常に増えてきたからです。例えば、『小説海越』三号で「亜麻色の髪の彼女に噛みついたガキの話」を書いた楊天曦はその一人です。

単行本を出して、商業的な意味合いを含め、評価を問うという方法は無名の新人の場合［出版社としては］やはりリスキーですし時間がかかる、でも優秀な新人の作品が集まるのなら新しい文芸誌として発刊することは、意義のあることだという気持ちが社内で了解されたからということになります。他の文芸誌で新人作品が頻繁に掲載されることはないので、受け皿になれるだろうという思いはありました。



▲海越出版社・小野寺弘尚さん

**——重複するかもしれませんけれども、『小説海越』の、文芸誌としての位置づけについてどのような狙いをお持ちかお聞かせください。**

小埜寺　『小説海越』に掲載される作品は依頼原稿と投稿原稿の二つに大別されます。できるだけ新しい文学的な才能を発掘していくことが本誌の使命と考えますから、編集部側が注目する作家の原稿を載せていくとともに、未知の才能を毎号のように掲載していくということが私たちの主軸の仕事になります。商業誌に書いている作家もあれば、同人誌が主な発表の場だという作家もありますし、いままで発表の場を持たなかった方の作品が載ることもあります。

**——いまいわれた同人誌については、『小説海越』ではどう捉えておられるのでしょうか?**

小埜寺　創刊後、いろんな文芸同人誌が送られてくるようになりました。同人誌の装いとしては、書店を通過してもしなくてもいいし、とにかく独自の発行形態を保持していくぞというムードが感じられる一方、書いている人の意識としては、どこかで商業誌の書き手の世界に参入していけたら、という気持ちが流露する二層で成り立っているように思われました。『小説海越』の内実としても多数の読者からお呼ばれされたいな、という気持ちで一杯ですが…。

## 「残る」作品をプロデュースしたい

小説海越
3号
1997・8
読むだけで暮れて行く日々
楊　天曦
殿谷みな子
瀧口　明
小久保圭介
澤井繁男
清水義範
清水良典
1000円
海越出版社

▶『小説海越』　海越出版社　季刊・千円

**——『小説海越』の位置づけとしては、なかなか商業誌に名前が上がってこない作家と商業誌との接点になろうという面もあるということですね。**

小埜寺　文芸同人誌の優れた書き手が商業誌にも進出していくことはありえることですし、『小説海越』でも同人誌のよき書き手に注目し、執筆依頼している方が何人かいます。素朴な気持ちだけでいえば、後々に残る作品をどれだけ掲載できるか、ということと同時代の読者や作家が羨望の目でみるような程の遊びのムードを持った編集内容がどれだけ実現できているか、に尽きると考えます。かつて天澤退二郎、渡辺武信らが集まった詩誌『凶区』はとても楽しそうな雰囲気に満ち溢れていました。まだ不十分ですが、私たちの雑誌についての役割も同様だと考えます。

いま、インターネットを利用して一部の作家や未知の書き手の作品を覗くことができますが、発信するための経費や利便さ、デザイン上の見事さや手軽さ、など遊ぶための自由度ということを考えたら、印刷工程を経た同人誌は何だか面倒だということになるかと思います。入稿、印刷、製本という面倒な手続きがある種の良さなんですが、それでも、個人の単位で自由なムードを獲得できるインターネットに未来の作家がさらに集中していくイメージはわりと簡単に想い描くことができます。

### 編集者と作品の関係

**——『小説海越』では作家のみならず、その作品の完成にかかわった編集者の責任も明確にしている点でもユニークだと思いました。どういったお考えで、あえてそうなさったのですか?**

小埜寺　掲載作品には携わった編集員の名前を記していく、というのが本誌の編集方針ですが、正直なところ、作品の質的な責任は著者の責任になり、商業的な責任は編集者（出版社）が負うところが大きいはずです。

**——要するに、編集者・出版社の仕事は「プロデュース」にあると?**

小埜寺　掲載された作品が正当に評価され、読者に支持されたりするために、その前提として本文レイアウトや挿画、表紙デザインなどの編集上のイメージ作りと、書店で流通させていくための営業努力、あるいはマスコミ（新聞、雑誌等）に取り上げてもらうための広報努力が編集者と出版社の仕事になります。これが私たちにとっての「商業的責任」の内訳といっていいと思います。もちろんこれらを称して「プロデュース」の仕事と換言してもかまいません。

しかしそれだけでなく、編集者の仕事振りによっては作品の質的な向上に寄与できるのだという、ある意味であたりまえの認識を前提に編集者の役割の確認と重要性を強調したかったのです。編集者が文芸作品の誕生のなかで果たす役割は（『小説海越』では）、①作家を選び、原稿依頼すること。届いた原稿を読み、決定稿にいたるまで作家とのやりとりをすること。②投稿原稿を読み、優れたものがあれば選択。決定稿にいたるまで著者とのやりとり、の二通りになります。

それが積極的な役割になるか消極的な役割になるかは、編集者の動いた日数や思い入れのあるなしにかかわらず、作品のよしあしになると考えます。まだ三号目を出しただけですから、文学的な成果を云々できる立場にありませんが、編集者の積極的役割を語るとするならば、「よい作品」や「よい新人」をどれだけ登場させることができるかに尽きるのだと考えるからです。作家と編集者が作品を生むために、二人の役割の区別ができないくらい不可分に関わっても、よいものができるかどうかは分かりません（もちろん、そうあってもいいのですが）。文章の削除、加筆、修正が作品によっては多数施されるものもありますが、そうでない作品もありえるということです。また「よい作品／よい作家」発見の僥倖に恵まれるならば、それだけで重大な役割のひとつを担ったと考えます。

**——小埜寺さん個人は、編集者としてどのように作品へかかわっていかれるおつもりですか?　あるいは、どのような作品の登場を求めておられますか?**

小埜寺　不埒ないい方しかできませんが、自分を呼ぶ作品（作家）がある場合に、どういう関わりかたができるかが「それぞれ個別的に」決まるとしかいいようがありません。また、どんな作品の登場を求めるかは、自分の方からいうことができないんです。ラジオの受信機みたいにチューニングしたり、あるいは同じ局を流しっぱなしに聴いている中で、向こうからやってくる「いい音楽」に震撼する体験は、小説に出会う体験とすごく似ています。

**——それは、ある意味でリアルかつ素敵な比喩だと感じます。そのようにしていま、結果的に『小説海越』にはどのような作品が掲載されてきたと思われますか?**

小埜寺　実際は、男女では六対四くらい、二十代はじめから七十代まであらゆる年代の作品が寄せられていますが、掲載の確率でいうと三十~四十五歳ぐらいが中心です。こちらが年齢を切っているわけではありませんが、いいなと思うとその年代。活字世代の最後世代が何かを残したがっているんだと感じますけど。

依頼原稿は、活躍しているけど、もっと飛躍すると考えられる作家を想い描きます。またこちらの売上部数のことも考えますから、最終的に単行本として出して商業的に成り立つかどうか、というイメージも入ってきます。

### おもしろい作品を求めて

結局一般論的な物言いにしかならないのですが、『小説海越』では、おもしろさのある作品であればどんどん暗闇から引っ張り出してきて行きたいのです。採算が取れるかどうか分からない文芸誌を立ち上げた訳ですから、「商売になるかどうか分からないよ、という判断で他誌に載らなかった光る作品が掲載されていくケースもありうると思います。

**——「おもしろさ」と仰いましたが、具体的にはどういったもののことでしょうか?**

小埜寺　『小説海越』にとって「おもしろい」作品というのは、読んでいて快感を得られるもの、に相当します。快感はストーリー性であったり、文章力であったり、構成力、作家の思念であったりといろいろな側面から感じられるのだと思いますが、それらから受ける感度の良さを一口で快感と呼びたいのです。

創刊号では、三浦俊彦の「実習校」という八十枚程の小説を掲載しましたがかなりの快感度数だったと考えます。教育実習生として高校に通っている女子学生の様子を見に、担当の大学教師がその高校へ訪問するのですが、応対した高校の教師たちがどうしてだか時間稼ぎばかりして、肝心の女子学生に会わせない。「いま呼んで来ます」とかいわれながら結局、会えずじまいで帰ることになる。その後しばらくして、女子学生は教師になることを断念したということが大学教師に伝わる。で、最後の方で、この女子学生は交通事故で亡くなっちゃうんです。結局、教育実習で彼女はどんな様子だったのかということと、なぜ、実習校の先生たちは彼女と会わせようとしなかったのかということの二点が意図的に描かれずに、いわば謎を作ったまま筆を置いた作品なんです。「ここに女子学生を連れてきてくれ」という思いの大学教師と、あたふたしながら結局会わせない、高校の先生たちとの齟齬まるだしのやりとりが読んでいて快感だった作品でした。

一般商業文芸誌には向かないが、『小説海越』ではとりあげるということでいえば、新人作品の長篇も掲載するということでしょうか。二号では三百六十枚、三号では二百四十枚の長篇が入りました。

**——最後は著しく抽象的で陳腐な質問で結びたいと思います。「なぜ人は文学を必要とするのか」、どうお考えですか?**

小埜寺　…なるべく俗に答えられたらいいなと思いますが、それは理想として(笑)。通じるギャグと通じないギャグというものがありますが、通じないギャグを通じさせるためには、文学というか、表記された文字による方法（表現）が適しているのではないかと思います。そういった意味で文学も。

（インタビュー：森田美仁）

---

# セックス論を読む——

## 虚構と現実とがせめぎあう舞台

**長山智香子**

**御開帳**

**はるの若菜　早瀬まひる 著**

雑誌『ａｎａｎ』が「セックスできれいになる」をキャッチコピーに特集を組んだのは、一九九〇年代のはじめだっただろうか。いまや、女性がセックスを話題にしてもさして不思議はないものと思いきや、『御開帳』の帯には「女の快楽のすべて、御開帳（みせますためします）!」の文字が。役に立つ情報としてでなく、のぞき見趣味的な売り込みがなされることに胸が悪くなったが、信頼できる友人の「面白かったよ」の声についつい手にとった。

本書は一九九五年に単行本として刊行され、この夏に文庫本として版を改めたものである。著者は、はるの若菜と早瀬まひる、それぞれ三十代、四十代の女性とのこと。内容が個人的交友関係に及ぶためにペンネームを採用したのだろうが、興味深いのは、あきらかにペンネームと分かる名前をとること―つまり筆者を特定できないこと―で生まれる効果である。「女性による自分自身の性経験を語った往復書簡」を売り物にしたこの著作が、本当に女性によるものなのか判断できないし、また真実の経験であると保証してくれるものもない。ひょっとすると書き手は男性かもしれないし、一人で二人を演じ分けているかもしれない。また「先日体験したこと」のように書かれていても、実は筆者の想像にすぎないのかもしれない…。こうやってみると、「本当の女性として真実の性を語ること」が虚構であることを、皮肉にもこの著作自体が示していることになる。

内容は、避妊法や避妊具、快楽と恋愛の関係、膣・クリトリスなど身体の部位、オナニー、体位、セックスをした相手（男女とも）、ホテル、小説や映画など多岐にわたる。文通の形をとって、お互いの突っ込みや質問に応じながら展開してゆくので、避妊なら避妊というテーマごとに読もうとすると非常に面倒くさい。巻末に索引をつけてくれれば実用書としても使えそうなものなのだが。だが実用書とはいっても、「これに従えば間違いなし」というマニュアルとして読むのではなく、読者自身が体験してそれぞれに合ったやり方を見つけるための提案として読むのが、いい線だろう。

ページをめくるにつれて、「女の快楽のすべて」なんて帯の文句がますますあやしいものに思えてくる。書簡、つまり二人の対話という体裁をとることによって、女としての共通点よりも、一人と一人としての差が浮き彫りになっていくのだ。まひるが「二人の考えが食い違っているところがおもしろい」といっているように、若菜とまひるの違いこそが対話のきっかけであり、スリリングな点である。例えばまひるはいう、「『安全日』なんてありません!」、「妊娠のリスクがないセックスがありうるというのはロマンティックな幻想にすぎない、と。一方若菜はまひるの「安全日」観に賛成しつつも、自分は月経が比較的順調で、月経とオリモノと基礎体温とセックスの回数を日々記録して「安全日」を割り出して避妊してきた、と答える。するとまひるがその記録に興味をもち、求めに応じて若菜がそれを紙上公開する…といった具合。しかもこの対話は単なる「あなたと私は赤の他人よね」で終わりはしない。互いの話に興味を持って真剣に耳を傾ける。面白そうなことはどんどん自分もやってみる。若菜とまひるが述べるのは「私とセックスの相手」という「ふたり」についてだが、この対話のありさまも、ある理想的な「ふたり」のありかたを示している。「二十歳の頃にこんなに何でも話せる相手がいたらよかったのに」とまひるが振り返っているように。

さて、末尾に至って、理想の関係が要約される。ひとり暮しの若菜は「男を快楽の『道具』に使ってでも、女たちが正直になれ、元気になれ、気持ち良くなれる社会の方がいい」、複数の男性といい友人、同志、遊び友だち、先生と生徒という付き合い方をしながら、「基本的には一人でいて、お互い会いたいときに会うのがいい」という。これを読むと、「自由な生き方」を実現していそうな若菜に励まされ、またモテモテなところを想像して羨ましくなる。しかし丹念にページをさかのぼると、「会う回数もそれぞれ年に数回」という記述にめぐりあう。まあ、こんなものか。人は仕事もすれば風邪もひく。セックス論は読み方に要注意である。

自分の身体も他人との関わり方も、結局はそれぞれのやり方でしかつかみようがない、しかも分かったつもりの定式にこだわらない方が上手くいくこともある。言説空間に遊んだ後は、「あとはご自由に」と背中を押される心地で本を閉じるのだ。

（ながやまちかこ氏は人間・環境学研究科修士課程）

▲『御開帳』／河出文庫／五百円（写真は単行本）

---

# 君もアインシュタインになれる!?

「理系のための研究生活ガイド」　坪田一男著

理系向きの「超整理法」。この本の内容を一言で表現すれば、こうなるだろう。実行するかはさておいて、一読しただけで頭がよくなった気になる。理系の高校生や、大学生、果てはサラリーマンまでを対象に、そんな「研究者生活」のエッセンスを体現した本だ。

今までの研究者の紹介をした本といえば、ファインマンや森毅など、名をあげた一握りの人物が、人生を回顧するものが多かった。それらの本は読むにはいいが、自分の人生とシンクロさせることは難しい。その点この本は違う。「ゼミは教授の人柄で選べ」から「コミュニケーションのＡＢＣ」「論文を書くコツ」など内容も易しく、実地に即して（?）もいる。

その点が、「知的生産の技術（岩波書店）」や「知的生活の方法（講談社）」といった古典的名著と違うところだ。『知的生産の技術』で紹介された「京大式カード」など、多くの人がすばらしいと思いこそすれ、まず面倒になって、実際に使いこなすまでにはいかない。それどころか、「超整理法」のあのやり方ですら実行できる人は少ない。説明するまでもないが、「あの」やり方とは「袋に入れること」ではなく、「ひたすら時系列」で整理し、「古いものは捨てる」という方法だ。

BLUE BACKS
理系のための研究生活ガイド
坪田一男

◀講談社ブルーバックス／七百六十円

その点、この本では研究内容以外では、基本的にすべての場合について「簡単な方法」を「単純な方法」を選ぶようになっている。だからこの本の読者は、整理法からパソコンの使い方、論文の読み方書き方投稿のやり方、留学の仕方まで「こんな簡単でいいのか!」と驚くことばかりだろう。

でも、「こんな簡単」なのは本を読んでる間だけ。作者の経験がどんなにすばらしくても、すべてのデータをジャンル分けせずに「時系列だけ」で整頓するのは難しい。逆説的に言えば、あらゆる本の中でもっとも役に立たないのが、これらの本だと言えるかもしれない。(関)

---

コース プラス ＋1000円で飲み放題!!
すき焼き食べ放題コース 2,800円
（特選牛肉・地鶏・野菜盛合せ・うどん・ごはん・一品盛合せ・デザート付）
得々宴会コース 2,800円より
味で勝負の
ちゃんこ 恵那櫻（えなざくら）
全室個室
無料カラオケのある 京阪三条店 ケイハンサンジョウ
京阪三条駅東へ200m南へ10m
☎541-0900

入所日…毎土曜日
低料金で入所
スピーディに卒業
―卒業生の事故率は極めて低く 学科合格率は高位を誇っています―
―One of the most traditional in City!―
普通車科技能コース
◎随時制…ご都合の良い時間を選べます
◎速成科…「合宿と同じ二十二日間で終了」を目標に一日二時限、ご都合の良い時間で
◎定時制…一日一時限、ご都合の良い時間を優先確保します
二輪車科技能コース
◎随時制…ご都合の良い時間を選べます
お申し込みは生協プレイガイド
京都大学よりバス送迎15分
KOETSU DRIVER'S & RIDER'S SCHOOL
普通 二輪 光悦自動車教習所
親切、丁寧
確実な指導が
人気のマト!
まっさらなハートが走りだす
〒603 京都市北区大宮玄琢（げんたく）南町25　電話075-493-0101　千本北大路上るスグ

地球・自然・人間
を見つめる
情報ステーション
あーす書房
10坪の中に未来がある
京都市左京区田中門前町96番地の2
TEL(075)721-3619
FAX(075)723-7004

HOW TO GET THE CHEAPEST AIR TICKET
学会等に。正確・信頼の
KRK TRAVEL
㈱関西旅行研究会
京都市左京区吉田牛の宮町9
9 YOSHIDA-USHINOMIYA-CHO SAKYO-KU KYOTO 606
TEL 075-751-1513(代)